

資質・能力を育成するための「授業改善ベーシック」



解説編

はじめに

本資料は、これまで南部教育事務所が作成し先生方に活用していただいていた、【学力向上のための「授業改善ベーシック」】を見直し、新学習指導要領の趣旨を踏まえ、新たに【資質・能力を育成するための「授業改善ベーシック」】として、作成したものです。

先生方の授業改善の手引きとして、授業の準備段階から、振り返りまでの基本的な流れを示したものです。例えば、指導計画を立てる前の基本事項の確認の際、授業後の自身の振り返りの際、校内研修や研究授業の際などに活用していただくことを想定しています。

グランドデザインは、チェックリストとして活用できるようになっているとともに、本資料（解説編）は、各項目のより詳細な説明を加えたものとなっておりますので、「主体的・対話的で深い学びの実現」や「一人一人が着実に伸び続ける授業づくり」の参考にしていただければ幸いです。

主体的・対話的で深い学びの実現
一人一人が着実に伸び続ける授業づくり



風は南から
13市町とともに
全県に発信する南部教育事務所



埼玉県マスコット
「コバトン」

1 準備

何ができるようになるかな？



- 児童生徒の実態把握
- カリキュラム・マネジメントの視点からの指導計画
- ねらいとゴールイメージの明確化
- 教材研究（ICT等の活用や教材・教具の工夫）

□児童生徒の実態把握

- ・日頃の学習状況と各種調査の結果から、よい点や課題となる点を明確に把握します。

□カリキュラム・マネジメントの視点からの指導計画

- ・カリキュラム・マネジメント3つの側面を意識した指導計画を作成します。
教科横断的な視点…学校として、育成を目指す資質・能力を踏まえてねらいを設定し、他の教科等との関連付けを図っているか。
PDCAサイクルの確立…児童生徒や学校、地域の実態に基づいて、課題となる事項を見出し、指導方針を立案しているか。
人的・物的資源の活用…ゲストティーチャーやICTをはじめとした教材・教具を活用できないか。
地域や保護者の教育力を活用できないか。

□ねらいとゴールイメージの明確化

- ・児童生徒が「何ができるようになるか」（育成すべき資質・能力）イメージし、本時だけでなく、単元を通してねらいと評価規準を明確にします。

□教材研究（ICT等の活用や教材・教具の工夫）

- ・児童生徒が「どのように学ぶか」、教師が「どのように支援するか」、そのための環境等「何が必要か」を考えます。
- ・1時間の授業の流れがわかるような指導計画を立てます。
- ・児童生徒の思考を助けるため、ICT等の活用や教材・教具を工夫します。

2 見通し

一人一人に見通しを持たせる！

- 意欲を高める導入の工夫
- 本時のねらい・課題の設定や提示
- 構造的な板書



□意欲を高める導入の工夫

- ・本時の問題や課題を示す際に、児童生徒が課題を解決しようとする意欲を高めるために、生活との関連や既習事項との関連等を示します。
- ・例えば、これまでの児童生徒の考えとの「ずれ」や「隔たり」を感じさせたり、対象への「憧れ」や「可能性」を感じさせたりするなど、課題意識を持たせます。

□本時のねらい・課題の設定や提示

- ・黒板に本時のねらいや課題等を提示し、本時に何を学習するのかを明確にします。
(教科等の特性や学年に応じて、「ねらい」「課題」「めあて」などと表現することがあります。)
- ・本時のまとめと振り返りにつながることを意識して、その過程をイメージします。
(ゴールイメージとプロセスイメージ)
- ・児童生徒、一人一人が見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげるため、自ら解決の方法を考えさせる場面を設けます。

□構造的な板書

- ・児童生徒が、何をすべきか明確に把握できるように、課題を解決するために必要な見通しやヒント等を示すなどの工夫をします。
- ・板書は、児童生徒のノートにも反映されることを意識して行います。
- ・1単位時間の終了時の板書が、1単位時間の学びとなるように計画します。
(指導計画と板書計画がリンクします。)

3 学習活動



- 教師の意図的な発問
- 思考の場・学び合いの場の設定
- 個に応じた適切な評価と支援

思考をゆさぶる！！



埼玉県マスコット「さいたまっち」

「見方・考え方」を働かせる！！

□教師の意図的な発問

- ・児童生徒の思考を揺さぶる意図的な発問を行います。
- ・児童生徒の発表や発言を「なるほど」と受容し、「なぜ？」「どうして？」と問い返します。
- ・児童生徒の発表や発言で足りないところを補う発問を行います。

□思考の場・学び合いの場の設定

- ・児童生徒が主体的にじっくり考える場を設定します。
- ・友達との学び合いから、それぞれの考えの異同を整理し、自分の考えや集団の考えを発展させることができるような場を設定します。
- ・多様な情報や考えを収集したり、自分にはない異なる考えに気付かせたりします。

□個に応じた適切な評価と支援

- ・児童生徒の活動から形成的評価を適切に行います。つまづいている児童生徒に対しては、その場で課題を解決できるように適切に支援します。

4 振り返り

- ねらい・課題に正対したまとめ
- 児童生徒のことばによるまとめ
- 教師による評価 **自己効力感を高める!!!**
- 次時や日常生活につながる振り返り



□課題に正対したまとめ

- ・本時のねらい・課題がどう解決されたのか、「ねらい・課題」と「まとめ」を正対させます。
- ・児童生徒自身で学習内容（「何を学んだのか」「何が身に付いたのか」）を整理します。

□児童生徒のことばによるまとめ

- ・児童生徒の思考を整理し学習内容の確実な定着を図るために、児童生徒のことばからまとめていきます。
- ・児童生徒が、わかったことなどをノートに記述したり、教師が、児童生徒の発言をつなげ、思考の過程等が見えるように板書に残したりします。

□教師による評価

- ・児童生徒の思考を教師がサポートします。
- ・本時のねらいに照らして、向上したことや学び方を確認、実感できるように称賛します。

□次時や日常生活につながる振り返り

- ・できるようになったことや学び方のよさなど、子供自身で変容に気付かせます。
- ・わからなかったことや考えたことについて、児童生徒自ら問い直します。
- ・次時に確かめる新しい問題を見つけたり、学習内容と日常生活とのつながりを実感したりします。